

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871100160		
法人名	株式会社 ほーむけあいしやま		
事業所名	グループホーム遙遙		
所在地	茨城県常総市新井木町28-3		
自己評価作成日	平成21年12月22日	評価結果市町村受理日	平成22年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成22年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「ひとりのために」を基本理念に、利用者の持っている力を引き出し生き生きとした日常生活を送れるよう支援しています。</p> <p>介護福祉士8名(2ユニット)のスタッフがおりより良い介護の向上に努めています。スタッフの向上心が高く今年は介護支援専門員3名合格しています。</p> <p>いつも笑いのあるホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>一人一人に合った支援を基本理念(一人のために)とし日々ケアに努めている。職員はケアに対する向上心が高く、それに応じ職業意識や職場環境の整備に代表は応えるようにしている。ホーム主催の納涼祭に地域住民の参加を呼びかけたり、地域主催の夏祭り、花火大会に参加し交流を開催し、また介護相談を受けたり、野菜やお花の提供を受けることもある。食の楽しみを感じてもらいたいので、利用者の意見を聞きながら、旬の食材を取り入れ、手作りでおいしい料理を提供している。</p>
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりのために」を基本理念に掲示し実践するように取り組んでいる。 毎月1回の合同会議で職員全員理念の共有を図り実践に向けて取り組んでいる。	『一人のために』基本理念とし利用者が地域で当たり前の生活できるようケアに努めている。月1回の合同会議で管理者、職員は理念を確認し共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣から花や野菜を頂くことがあり、近隣のかたを納涼会に招待し交流を図っている。地域のお祭りや花火大会にも参加し、地元のスーパーで買い物し顔を覚えていただく。	ホーム主催の納涼祭に地域住民の参加を呼びかけたり、地域主催の夏祭り、花火大会に参加交流することにより花や野菜の提供をうけることもある。地域住民から介護相談を受ける時もある。自治会に加入しホームに対する理解を得るよう努めるとの事。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望の有無に関わらず相談があった時は、介護保険の利用方法・関連機関への連絡の取り方等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動や入居者の様子などを報告することにより、外からの客観的な意見を取り入れている。また今後のサービスの向上に生かしている。	2ヵ月ごとに行政(各担当より3名)、民生委員、地域区長、家族、ホーム関係者の構成メンバーで開催し、ホームの活動や利用者の様子を報告し、会議で出た意見等をサービス向上に活かしている。職員にも報告し、会議内容は共有している。欠席の家族には郵送にて報告している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者の受け入れやにも、市開催の研修会や会議にも積極的に参加している。	行政との連絡を密接に行い、また地域住民からの相談を関係機関に繋いでいる。市主催の研修、会議には積極的に参加している。地域密着型連絡協議会に行政も参加し、協力を得ている。市のケアマネ会に講師として参加した。中学生の体験学習の場として提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は施設開所以来していない。また月1回の合同会議にて身体拘束委員会を開き職員全員理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回の職員会議で身体拘束、虐待行為を勉強し職員は正しく理解し、施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向の利用者には見守りながらその場面に合った支援を心がけている。玄関のチャイムは防犯防止の意味から設置。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の合同会議の時に高齢者虐待委員会を開き、事業所内の虐待の防止と勉強する場を設けている。		

茨城県 グループホーム遙遙

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の社会福祉協議会に出向き担当者に日常生活自立支援事業のパンフレットをもらいました。ケース会議で必要性を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をするとともに利用者や家族に不安や疑問点がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方にも出席してもらい意見・要望を聞いている。 また施設内に意見箱の設置や面会時に何でも話せる雰囲気を作りい権を聞き出し運営に反映させている。	意見の言い出しにくい家族や利用者に対し意見箱の設置、第三者窓口の電話番号を明示している。面会時や、運営推進会議、家族会で意見、要望を聞くようにしている。	重要事項説明書に苦情解決責任者を明示することが望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回に合同会議を開き意見や提案を開く機会を設けている。	月1回の合同会議の他、代表者と管理者は日々、職員の意見や提案を聞くようにし、それを話し合い、反映させている。職員のケアに対する向上意欲に対してバックアップしている。代表は職員と面接を行い意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得した時はお祝い金が支給される。また資格手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では新人・中堅・管理者研修がある。 また年に1回実践報告大会を会社で行い、施設内のケアの実践報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回市内のグループホームの代表者が集まり連絡協議会を開催してネットワークづくりを構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段からご本人とコミュニケーションを密にとり信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の面会時に不安なことや困っていることなどを聞き出している。 また面会時電話等で連絡を密にして信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に情報を収集しどのサービスが必要かを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人について理解した上で家事・手伝いを一緒にしたりして共に暮らしている雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活状況を密に報告している。ご家族からも情報を聞いたり意見を聞きながらともに情報を共有してご本人を支えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人知り合いの方の面会を快く受け入れている。	家族、友人との電話連絡、面会、お墓参り、馴染みのお店で食事、パチンコに行き人や場所との関係が途切れないよう支援している。その時々利用者にはいろんな表情を見せてくれるのが、職員の楽しみであるとの事。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけ食堂や居間で過ごしてもらうように努めている。また居室の移動やユニットの移動も検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があった場合などに相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを十分に行い本人本位のケアを実現させている。	利用者の思いや意向をアセスメントや日々の会話から把握に努めている。自己表現の困難な利用者にはその利用者の立場に立って検討するように職員で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、その情報を職員同士共有することでその人らしい生活を送ってもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・日誌など様々な記録や職員同士の情報交換により一人ひとりの現状について把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間・医師との話し合いによるモニタリングはできているが、本人・家族との話し合いは十分ではない状況。	職員間、医師と毎月カンファレンスを開催し、それをもとにケアマネが介護計画を作成し、家族に郵送し同意を得ている。モニタリング、評価を行い現状に即した再プランを作成している。ケース記録はケアプランと連動している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほぼ毎日ケース記録を記入している。月に1回ユニット会議を行い本人の情報を共有して日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いや医療処置を続けての施設生活 お墓参りや馴染みの店での外食など可能な支援サービスを行っている。		

茨城県 グループホーム遙遙

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練を通して消防署の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医が往診に来てくれている。 その他家族の方が希望した場合は希望の病院へ通院している。	月2回の協力医院の往診、又歯科往診も月2回あり、受診後は日誌、ケース記録に残して家族に報告。重要な症状の場合医師が直接家族に連絡する場合もあり。かかりつけ医には家族付き添いで通院し受診報告を受けて記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいません		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き入院先の看護師・ケースワーカーと情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの同意書にサインをもらっている。また家族の希望が変わった時や重度化した時にその都度話し合いをして方針を決め支援している。 かかりつけの医師との連絡を密にできる限りの支援をしている。	契約時にホームとしての指針、方針を説明し同意書にサインをもらっているが、重度化した場合は家族の思いを何度も再確認しながら関係者と話し合い(家族、医師、職員)ホームとしてかかりつけ医との連絡を密にし出来ることの支援をしている。今後は訪看との連携も必要と感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網など急変時のマニュアルを作成して緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練の実施をしている。また非常用の水・食事を常備玄関に備えている。	消防署指導により年2回の避難訓練を利用者と共に実施している。(夜間想定、消火器使用方法等)。非常用として、水、乾パン等を整備している。消防計画書、報告書、写真が記録されている。暮れ、新年の挨拶を近隣に行い、協力依頼をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し呼び捨てやちゃんづけなどをしないように声掛けをしている。	人生の先輩として教えてもらうことが多く、家族の一員として言葉かけや対応をしている。書類関係は鍵のかかる2階事務室の書棚に保管している。写真やパンフレットの情報に関し同意を得ている。家族との話し合いは居室、事務室にて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望などの訴えがあった時はできるだけ本人の希望に沿うように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人ひとりのペースに合わせて支援しているが職員不足のときなどは対応できない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が意思表示ができるときは好みの服を着てもらい、意思表示ができないときはこちらで好みを把握してきてもらっています。起床時には、モーニングケアを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは皮むき、すじとり、こねる、混ぜる丸めるなど簡単な作業ができる支援をする。、食器拭きやおしぼりたたみを手伝ってもらっている。	職員と一緒に利用者の出来る範囲で準備、配膳、下膳、食器拭きと一連の作業を行うことで利用者がやりがいを感じてもらうよう支援している。職員と同じテーブルで会話を楽しみながらの食事風景であった。職員手作りの料理は実に美味しかった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックをしている。 一人ひとりの嚥下の状態に合わせて普通食・刻み食・とろみ食を提供している。 栄養バランスを考えて献立に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科往診に来ている。 食事後はうがいをしてもらっている。夕食後は入れ歯を預かり洗浄剤で洗浄している。		

茨城県 グループホーム遙遙

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り本人の排せつパターンを把握して、できる限りトイレで排せつできるように援助している。	一人ひとりの排泄パターン、その時々表情や様子から把握し事前にトイレに誘導し自立に向けた支援をしている。失禁時にはプライバシーを損なわないように対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに下剤に頼らず食事の工夫や腹部のマッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自分で意思表示ができる人は希望通りに入ってもらっている。できない人はこちらから声掛けをして入ってます。	利用者の体調、希望に応じ入浴支援を行っている(週3回) 拒否者に対しては時間を置いて再度声をかけたり、足浴、清拭にて対応している。季節に応じて菖蒲湯、ゆず湯でのんびり出来る時間を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活スタイルに合わせて眠れるように支援している。 居室の温度調節・湿度調節に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師に定期的に訪問してもらい薬の使用法・副作用などを指導してもらっている。副作用が出た場合はかかりつけ医に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格を理解して個人個人に合わせた楽しみ事を支援している。 (歌・ドライブ・買い物・外食・計算)など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時はドライブ・散歩・買い物などに誘っている。 外食・外泊・日帰り旅行など家族と出かけている。	利用者の体調に合わせて、天気のよい日はドライブ、散歩、買物、ピクニックに出かけ外気浴を楽しんでいる。家族の協力を得て、外食、外泊、ミニ旅行に出掛けている。	

茨城県 グループホーム遙遙

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や希望に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話の取り次ぎをしている。 自分でかけられる人はやってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり季節感のあるものを置いたりしている。 部屋の温度・湿度には常に気をつけている。	玄関周りはパンジー、水仙等季節の草花で、温かい雰囲気作りに努めている。利用者はコタツ、食卓の椅子に座り思い思いの空間で過ごしている。夜間はトイレの照明をセンサーライトにして、すぐ分かる様にしている。居室の入り口も利用者がすぐ分かるように工夫している。(色々な方法あり。)	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性やADLに応じて本人にとって居心地の良い場所を提供できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から仏壇や馴染みのタンスなどを持ってきてもらい本人にとって居心地の良い部屋になるようにしている。	馴染みのたんす、テレビ、テーブル、椅子、仏壇を設置し、また家族の写真、趣味のぬいぐるみ等を置き利用者が安心して心地よく過ごせるような居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置している。 居室の入口に目印になる小物を飾ったり夜間はトイレの電気をつけておきすぐにトイレの場所が分かるようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	重要事項説明書に苦情解決責任者を明示していないので、誰が責任をもって解決するかわからない。	重要事項説明書に苦情解決者を明示する	直ちに苦情解決者を重要事項に明示した。 苦情解決者は代表取締役 石山 道代	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。